

久美子, 野木裕子, 鳥海弥寿雄, 武山 浩, 内田 賢.  
乳癌患者の心のケア—術前後のアンケート調査: うつ  
状態は34.2%—, 第19回日本乳癌学会学術総会, 仙台,  
9月.

- 15) 武山 浩, 田部井功, 加藤久美子, 野木裕子, 神尾  
麻紀子, 川瀬和美, 鳥海弥寿雄, 内田 賢, 森川利昭.  
細胞中シアル酸化ファイブロネクチンの増加は甲状腺  
癌リンパ節転移と相関するか, 第44回日本甲状腺外  
科学会学術集会, 米子, 10月.
- 16) 浅野久敏, 矢部三男, 山下 誠, 神谷紀輝, 平野 純,  
尾高 真, 森川利昭. 頭頸部癌肺転移症例に対する検  
討, 第53回日本肺癌学会総会, 岡山, 11月.
- 17) 尾高 真, 浅野久敏, 矢部三男, 山下 誠, 平野 純,  
神谷紀輝, 森川利昭. 胸腔鏡手術を選択する理由とは,  
第53回日本肺癌学会総会, 岡山, 11月.
- 18) 山下 誠, 森 彰平, 浅野久敏, 平野 純, 神谷紀輝,  
尾高 真, 森川利昭. 上大静脈合併切除を施行した浸  
潤型胸腺腫の一例, 第158回日本胸部外科学会関東甲  
信越地方会, 東京, 3月.
- 19) 川瀬和美. (シンポジウム 18-S-6: 医療人の働く環  
境を考える) 外科における女性医師の継続就労の問題  
点と他科から学ぶ対策, 第28回日本医学会総会, 東  
京(誌上開催), 4月.

#### IV. 著 書

- 1) 川瀬和美. Part3: 乳腺・乳房疾患 Chapter2: 乳  
腺・乳房疾患各論 Unit1: 乳腺炎, 落合慈之<sup>1)</sup>監修,  
針原 康<sup>1)</sup>, 角田 肇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>NTT 東日本関東病院) 編.  
婦人科・乳腺外科疾患ビジュアルブック, 東京: 学研  
メディカル秀潤社, 2011. p.321-4

#### V. その他

- 1) 森川利昭. 会長, 第158回日本胸部外科学会関東甲  
信越地方会, 東京, 3月.
- 2) 森川利昭, 遠藤俊輔 (自治医科大学). (パネルディス  
カッション2: 転移性肺腫瘍に対する治療戦略) 座  
長, 第36回日本外科系連合学会学術集会, 浦安, 6月.
- 3) 秋葉直志. (講演) Tailor-made virtual lung の臨床  
応用, 第22回東葛北部呼吸器疾患懇話会, 千葉, 6月.

## 小児外科, 血管外科

教授: 大木 隆生	血管外科
講師: 石田 厚	血管外科
講師: 金岡 祐司	血管外科
講師: 戸谷 直樹	血管外科
講師: 吉澤 穰治	小児外科

### 教育・研究概要

#### I. 小児外科

##### 1. 教育

4年生を対象としたコアカリキュラム中で小児外  
科の系統講義は2時間である。小児外科疾患数が多  
く、2時間の講義では疾患の概要を解説するのみに  
なるが、豊富なスライドと国家試験でも活用できる  
プリントを用いて効率のよい学習ができるように計  
画した。不足分を補うために5年生では small  
group teaching と手術に直接参加する機会を多くす  
ることによって小児外科疾患の知識の固定化を図っ  
ている。6年生の選択実習においては、Stanford 大  
学小児外科で1か月の実習ができるようにしている。  
研修医に対しては、小児の採血・点滴路の確保・皮  
膚縫合などの手技をはじめ、短期入院患児の術前・  
術後管理や消化管造影検査・尿路造影検査などの介  
助に参加させることで小児診療の特徴を感じてもら  
っている。外科レジデントには、臍ヘルニア・鼠  
径ヘルニア・虫垂炎手術・開腹噴門形成術・中心静  
脈路の確保などの術者・助手をすることによって、  
外科専門医修得のためにたる手術経験数の確保と手  
術手技の基本教育をおこなっている。小児外科専門  
医を目指す若手医師に対しては、専門医資格修得条  
件を満たすに足る症例を十分に経験できるようにし  
ている。さらに指導医を目指す医師に対しては難易  
度の高い手術の術者経験を重ねられるよう配慮して  
いる。また、小児内視鏡外科手術手技の修得のため、  
若手医師には講習会への参加できるように配慮して  
いる。

##### 2. 研究

- 1) 乳幼児の便秘症患児の直腸内圧検査・直腸肛  
門反射に関する研究
- 2) 埋没陰茎に対するテストステロン投与と陰茎  
形成術との併用療法に関する研究
- 3) 重度膀胱尿管逆流症に対する膀胱鏡下 De-  
flux 注入療法の適応拡大に関する研究
- 4) 中心静脈カテーテルに関する研究: 細径イン  
トロデューサーの開発。

- 5) 重度心身障害児に対する腹腔鏡下噴門形成術に関する研究。
- 6) 漏斗胸に対する Nuss 手術：複数本のベクタスパー挿入法の適応と臨床効果に関する研究
- 7) 悪性腫瘍に対する分子標的療法：血管新生に関与する抑制因子を発現する遺伝子を多種類導入することによって、腫瘍の増殖・転移抑制効果に関する研究
- 8) 血液浄化による敗血症治療：ラット敗血症モデルを用いて、血液浄化のタイミングと炎症性サイトカイン発現量に関する研究
- 9) 神経芽腫の新しい診断法・治療法への microRNA 応用に関する研究

## II. 血管外科

### 1. 胸腹部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフトの臨床応用

胸腹部大動脈瘤は破裂してしまうと極めて救命が困難であり、また待機手術においても未だ高い死亡率と対麻痺を始めとした悲惨な合併症を引き起こす厳しい疾患である。われわれは、開胸開腹手術が困難な症例に対しては個人輸入ベースで使用医療器具を入手し、枝付きステントグラフト手術を行っている。単径部や上腕動脈の小切開のみで腹腔動脈・上腸間膜動脈・腎動脈に送血用の枝をつけてから動脈瘤を空置する治療を行い得るため局所麻酔下での手術も可能である。枝付きステントグラフト手術を行い良好な成績を収めている。

### 2. 弓部大動脈瘤に対する新しい低侵襲手術の開発 (Chimney technique & Retrograde *in situ* branch surgery: RIBS)

胸部大動脈瘤の内、頸部動脈分枝を巻き込んだ形で瘤が存在する弓部大動脈瘤に対し、新しい手術方法を検討する。従来、この疾患に対しては弓部大動脈人工血管置換術が行われてきたが、既に胸骨正中切開により上行大動脈人工血管置換、心臓手術が行われている症例や、心機能・呼吸機能が著明に低下した症例においては、弓部大動脈瘤に対する手術は困難である場合が少なくない。そのため、より低侵襲な術式として、(1)頸動脈間バイパスを行い、頸部分枝を debranch することで、ステントグラフトをより中枢に留置する debranching 胸部ステントグラフト術 (debranching TEVAR) をおこなってきた。さらに、低侵襲手術の開発で、腕頭動脈や頸動脈にカバードステントを煙突状に留置することを組み合わせた chimney technique を開発した。現在では、それをさらに発展させ、ステントグラフトを

血栓が少なく性状が良い上行大動脈から留置し、頸動脈や腕頭動脈から逆行性に大動脈に挿入されたステントグラフト内に針で穴を開け、カバードステントをステントグラフト内に留置する RIBS を開発した。*in vitro* 下の基礎実験を繰り返した後に、学内倫理委員会、医療安全委員会による審査が行われ、臨床応用の承諾を得て、弓部大動脈人工血管置換術が困難と判断された弓部大動脈瘤患者に対して、本術式 RIBS による低侵襲手術を行っている。

3. 薬剤溶出ステントの基礎的研究と臨床応用  
浅大腿動脈の狭窄・閉塞病変 (SFA 病変) に対するステント治療は、未だ再狭窄率が高く問題点も多い。われわれは、SFA 病変に対して内膜肥厚の抑制を目的とした薬剤溶出ステントの開発と基礎的研究、さらに日米同時臨床治験も行った。臨床治験の結果は満足できるものであり、我々の努力結果もあり、2012 年より保険収載され日本で使用可能となった。

### 4. ステントグラフト術における下肢虚血再灌流障害予防に関する研究

ステントグラフトを行う際に大腿動脈への留置に用いるシースは大口径であることが多く、この大口径のシースを動脈内に長く留置することによる末梢動脈の血流遮断で下肢虚血を引き起こす。下肢虚血が長時間に及ぶとシースを抜去した際に下肢虚血再灌流障害が起こり、下肢コンパートメント症候群、そして時に死に至る合併症を引き起こす。そのため我々は長時間に及ぶ手術を行う場合や大口径シースにより下肢虚血を引き起こす可能性がある場合には、大口径シースの末梢側の動脈に小口径のシースを留置し、シースのコネクターを連結することで末梢動脈へ血流を供給することが可能で、このシステムによる下肢虚血の予防効果を研究している。

### 5. 血管内治療用シミュレーターを用いたトレーニングシステムの導入

血管内治療は特有の技能を必要とする分野であり、ある一定の learning curve が存在する。われわれは血管内治療用のシミュレーターを導入したトレーニングシステムを構築している。これは、パイロットのフライトシミュレーターの様に、実際に極めて近い画面を見ながら実物のワイヤやカテーテルを使ってトレーニングを行えるようになっている。頸動脈・腎動脈・腸骨動脈・下肢動脈などの各種血管に対する血管内治療がプログラミングされており、さらに難易度も選択できる。このシミュレーターでステップを踏むことで、臨床へのスムーズな移行が可能となる。

## 6. ヘパリン-PF4 複合体抗体の臨床研究

ヘパリンは抗凝固剤として血管外科手術において一般的に使用されている。ヘパリンの使用により血小板減少 (HIT) が誘発され、重篤な血栓症を発症することがあることが知られている。ヘパリンの使用量が少量であっても、ヘパリン血小板第4因子 (PF4) 複合体に対する特異的な抗体が産生され、HIT を惹起することがある。ヘパリン投与による抗体の産生はこれまで過小評価されていると思われる。我々は、過去2年間、約300例以上の血管外科手術患者において、ヘパリン-PF4 複合体抗体とPF4 活性を測定し、発生頻度、相関性について調査した。ヘパリン-PF4 複合体抗体陽性率は約13%であった。また、PF4 抗体陽性者のPF4 活性は、陰性者より有意に高値であった。今後、統計学的解析を加え、報告する予定である。

## 〔点検・評価〕

## 1. 小児外科

Stanford 大学小児外科における6年生の臨床実習には、3名の学生が1か月ずつ参加した。早朝から夜まで小児外科のレジデントの指導のもとに米国における診療の実際を経験でき、非常に有意義な実習ができたとの感想を得ている。また、看護学科においては、小児外科教育が行われていないことは今後、改善の必要があると考える。その他は、計画通りの教育をおこなうことができたと考える。

研究の成果は、日本小児外科学会において発表した。

## 2. 血管外科

現在、以下の研究が進行中である。さらに、日本屈指の腹部および胸部大動脈瘤ステントグラフト手術件数をほこり、日本で唯一米国から最先端の血管内治療用医療器具を輸入し使用している。現在この臨床データを解析し、その成績を主要学会で報告している。

- 1) 弓部大動脈瘤に対する分枝付きステントグラフトの開発・臨床応用
- 2) 3次元画像ワークステーションを用いた胸部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフトの研究
- 3) 閉塞性動脈硬化症に対する Drug Delivery System の開発
- 4) 3次元画像ナビゲーションシステムを用いた血管内治療の開発
- 5) Simulator を用いた頸動脈ステント術の術後知的レベル改善に関する研究

- 6) 浅大腿動脈プラークに対する各種薬物治療効果の研究
- 7) 閉塞性動脈硬化症の新しい血管内治療法の研究
- 8) 閉塞性動脈硬化症に対する薬剤溶出ステントを用いた再狭窄予防効果に関する研究
- 9) 重症虚血肢に対する遺伝子導入細胞および幹細胞を利用した血管新生に関する研究
- 10) bFGF (basic fibroblast growth factor) 含有生体接着剤の血管吻合部治癒促進効果に関する研究
- 11) 経皮的治療を可能にする Low Profile なステントグラフトの開発
- 12) 動脈瘤、心不全用 wireless 圧センサーの応用に関する研究
- 13) Wireless 圧センサーを用いた動脈瘤ステントグラフト治療の治療効果に関する研究
- 14) 本邦における血管病変の特殊性に関する研究
- 15) 腎動脈狭窄に対するステント術の治療効果に関する研究
- 16) 下肢静脈瘤に対する非手術的治療法に関する研究および臨床応用
- 17) 3次元画像ワークステーションを用いた大動脈瘤の経時的変化、治療効果の研究
- 18) 3次元カラードプラーを用いた血管病変の診断、術式に関する研究
- 19) 血管内超音波 (IVUS) を用いた血管内プラークの予後に関する研究
- 20) レーザー血流計を用いた血行再建と肢切断レベルの決定に関する研究
- 21) 頸動脈プラークの安定化に及ぼすスタチンの研究
- 22) 血管内治療用シミュレーターの医師トレーニングにおける有用性
- 23) 腎動脈狭窄症の治療適応を改善する研究
- 24) より低侵襲な頸動脈内膜剥離術の開発
- 25) 内腸骨動脈コイル塞栓術後の殿筋性跛行の予後決定因子を解明する研究
- 26) Zenith vs Excluder (腹部大動脈ステントグラフト) : どちらが優れているかを検討する研究
- 27) MDCT を用いた下肢バイパス用大伏在静脈の質的評価に関する検討
- 28) 未治療の胸部大動脈潰瘍性病変の予後に関する研究
- 29) 腹部大動脈瘤の診断契機に関する研究
- 30) 内蔵動脈瘤に対するカテーテル治療戦略に関

する研究

- 31) 大動脈ステントグラフト内挿術に際して大腿動脈を露出する際の外科的方法対経皮的方法の是非に関する研究
- 32) 胸部大動脈瘤患者において鎖骨下・椎骨動脈の側副血行に関する研究
- 33) 弓部大動脈瘤に対する hybrid surgery の開発
- 34) ステントグラフト術における下肢虚血再灌流障害予防に関する研究
- 35) 弓部大動脈瘤に対する新しい低侵襲手術の開発 (Chimney technique & Retrograde *in situ* branch surgery: RIBS)

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) Dake MD, Ansel GM, Jaff MR, Ohki T, Saxon RR, Smouse HB, Zeller T, Roubin GS, Burket MW, Khatib Y, Snyder SA, Ragheb AO, White JK, Machan LS; Zilver PTX Investigators. Paclitaxel-eluting stents show superiority to balloon angioplasty and bare metal stents in femoropopliteal disease: twelve-month Zilver PTX randomized study results. *Circ Cardiovasc Interv* 2011; 4(5): 495-504.
- 2) Nagano Y, Fukushima T, Okemoto K, Tanaka K, Bowtell DD, Ronai Z, Reed JC, Matsuzawa S, Siah/SIP regulates p27 (kip1) stability and cell migration under metabolic stress. *Cell Cycle* 2011; 10(15): 2592-602.
- 3) Yoshizawa J, Negishi Y, Matsumoto Y, Ueoka R, Ohki T. Inhibitory effect of drug-free hybrid liposomes on metastasis of human neuroblastoma. *Pediatr Surg Int* 2011; 27(4): 379-84.
- 4) 大木隆生. 労働条件の改善だけではなく村社会形成が外科再生の要である: 慈恵医大での取り組み (SP-4 特別企画 (4) 外科医療における責任とインセンティブ: なぜ日本の外科医は一生懸命に働くのか? 第 111 回日本外科学会定期学術集会). *日外会誌* 2011; 112 (臨時増刊号 1・2): 163.
- 5) 大木隆生. 富裕層の「死に金」をトキメキへ. *文芸春秋* 2011; 4月号: 329-30.
- 6) 大木隆生. 治験立国による日本経済再生ビジョン. *日外会誌* 2011; 112(3): 155.
- 7) 大木隆生. 頸動脈狭窄症の最近の動向: 特集に寄せて. *日外会誌* 2011; 112(6): 370.
- 8) 大木隆生. Open HEART: 血管外科学教授の使命. *心臓* 2011; 42(4): 423-4.
- 9) 大木隆生. 【徹底! 被ばく低減化計画】(Part 1) 放射線防護と管理 *Clinical Report* Reasonable な放射線防護法を導入して 慈恵医大におけるラドネックの使用経験. *Rad Fan* 2011; 9(8): 62-3.
- 10) 大木隆生. 【大動脈瘤治療の up to date】ステントグラフト治療 胸腹部大動脈瘤 手術不能の胸腹部大動脈瘤治療に対する枝付きステントグラフト術. *日外会誌* 2011; 112(1): 26-31.
- 11) 石田 厚, 金岡祐司, 大木隆生. これからの専門医資格と修練プログラム血管内治療を含む, これからの血管外科専門医資格と修練プログラム 慈恵医大での経験から. *日血管外会誌* 2011; 20(6): 823-7.
- 12) 佐久田斉. 海外文献紹介: 間歇性跛行に対する監視下運動療法が多施設無作為化臨床試験: フィードバックの有無による比較. *Angiol Front* 2011; 10(2): 162-4.
- 13) 佐久田斉. 海外文献紹介: 重症虚血肢の大切断および死亡に対する線維芽細胞増殖因子 NV1FGF を用いた遺伝子治療の効果: プラセボ対象ランダム化試験. *Angiol Front* 2011; 10(3): 240-2.
- 14) 佐久田斉. 海外文献紹介: 小口腹腹部大動脈瘤に対する早期血管内大動脈瘤治療とサーベイランスとの比較: 無作為試験 (CAESAR 試験) の結果. *Angiol Front* 2011; 10(4): 339-42.
- 15) 太田裕貴, 大木隆生. 【大動脈瘤・大動脈解離と MDCT】大動脈ステント治療と MDCT EVAR における MDCT 診断のポイント. *心 CT* 2011; 10: 91-9.
- 16) 金子健二郎, 石田 厚, 大木隆生. 診断の指針 治療の指針 血管外科領域の血管内治療. *綜合臨* 2011; 60(7): 1617-8.
- 17) 金子健二郎. 若手の疑問に答える 腹部大動脈瘤術後の片麻痺. *血管外科* 2011; 30(1): 192-4.
- 18) 宿澤孝太, 墨 誠, 田中克典, 大木隆生. 【末梢動脈疾患 インターベンションと外科治療の選択】治す期待される今後の治療法. *Heart View* 2011; 15(4): 401-7.
- 19) 宿澤孝太, 墨 誠, 金岡祐司, 大木隆生. 【頸動脈狭窄症の最近の動向】脳梗塞ゼロを実現した慈大式小切開 Eversion 内膜剥離術. *日外会誌* 2011; 112(6): 394-8.
- 20) 手塚雅博, 墨 誠, 大木隆生. 【外科領域のステント治療の現状と展望】血管外科領域のステント治療の現状と展望. *外科治療* 2011; 104(6): 896-906.
- 21) 平松友雅, 芦塚修一, 吉澤稔治, 大木隆生. 【小児がんにおける外科治療】小児の膝頭部腫瘍に対する幽門輪温存膝頭十二指腸切除術の手術手技. *小児外科* 2011; 43(5): 521-4.
- 22) 芦塚修一, 金井正樹, 吉澤稔治, 桑島成央, 黒部 仁, 大橋伸介, 大木隆生. 新生児期に行う anterior sagittal anorectoplasty. *日小外会誌* 2011; 47(1): 26-30.

23) 芦塚修一, 吉澤穰治, 桑島成央, 黒部 仁, 田中圭一朗, 大橋伸介, 大木隆生. 胆道拡張症に合併した胆道穿孔の2例. 日小外会誌 2011 ; 47(2) : 231-6.

### III. 学会発表

- 1) Ohki T. Opening remarks and introductions. 12th Annual Congress of Asian Society for Vascular Surgery and 6th Asian Venous Forum. Taipei, Sept.
- 2) Ohki T. Endovascular repair of arterial aneurysms. 12th Annual Congress of Asian Society for Vascular Surgery and 6th Asian Venous Forum. Taipei, Sept.
- 3) Ohki T. Current status and future horizons of vascular surgery a special lecture. 12th Annual Congress of Asian Society for Vascular Surgery and 6th Asian Venous Forum. Taipei, Sept.
- 4) Ohki T. Percutaneous EVAR under local anesthesia. 53rd Annual World Congress · ICA 2011 International College of Angiology. Nusa Dua, Sept.
- 5) Shukuzawa K, Maeda K, Kaneko K, Ohta H, Sumi M, Tanaka K, Kurosawa K, Hirayama S, Tachihara H, Sakuda H, Toya N, Kanaoka Y, Ishida A, Ohki T. Endovascular aneurysm repair is safe and effective for advanced age patients. 53rd Annual World Congress · ICA 2011 International College of Angiology. Nusa Dua, Sept.
- 6) Fukushima S, Toya T, Tumura K, Takizawa R, Shukuzawa K, Maeda K, Kaneko K, Ohta H, Sumi M, Tanaka K, Kurosawa K, Hirayama S, Tachihara H, Sakuda H, Toya H, Kanaoka Y, Ishida A, Ohki T. Treatment strategy for visceral artery aneurysm. 53rd Annual World Congress · ICA 2011 International College of Angiology. Nusa Dua, Sept.
- 7) Toya T, Sumi M, Shukuzawa K, Maeda K, Kaneko K, Ohta H, Tanaka K, Kurosawa K, Hirayama S, Tachihara H, Toya N, Kanaoka Y, Sakuda H, Ishida A, Ohki T. TachoComb surgical collagen patch for control of bleeding in vascular surgery : randomized controlled study. 53rd Annual World Congress · ICA 2011 International College of Angiology. Nusa Dua, Sept.
- 8) Takizawa R, Shukuzawa K, Maeda K, Kaneko K, Ohta H, Sumi M, Tanaka K, Kurosawa K, Hirayama S, Tachihara H, Sakuda H, Toya N, Kanaoka Y, Ishida A, Ohki T. Embolic complications after endovascular treatment of abdominal aortic aneurysm. 53rd Annual World Congress · ICA 2011 International College of Angiology. Nusa Dua, Sept.
- 9) Tumura K, Shukuzawa K, Maeda K, Kaneko K, Ohta H, Sumi M, Tanaka K, Kurosawa K, Hirayama S, Tachihara H, Sakuda H, Toya N, Kanaoka Y, Ishida A, Ohki T. Treatment of an aorto-duodenal fistula following surgical repair of an abdominal aortic aneurysm. 53rd Annual World Congress · ICA 2011 International College of Angiology. Nusa Dua, Sept.
- 10) Toya N, Ishida A, Fujita T, Ohki T. Embolic complications after endovascular treatment of abdominal aortic aneurysm. ISW (International Surgical Week) 2011. Yokohama, Aug.
- 11) Ishida A, Toya N, Fujita T, Ohki T. Short-term outcomes of 43 patients with visceral artery aneurysms treated in a high-volume center. ISW (International Surgical Week) 2011. Yokohama, Aug.
- 12) 大木隆生. (ランチョンセミナー) 外科医は世界一のお金持ち: 衣食足りたらトキメキをもとめよ. 第111回日本外科学会定期学術集会. 東京 (誌上開催), 5月.
- 13) 戸谷直樹, 手塚雅博, 宿澤孝太, 原 正幸, 金子健二郎, 前田剛志, 太田裕貴, 墨 誠, 田中克典, 黒澤弘二, 平山茂樹, 立原啓正, 金岡祐司, 石田 厚, 大木隆生. (シンポジウム) 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術の遠隔期成績. 第111回日本外科学会定期学術集会. 東京 (誌上開催), 5月.
- 14) 石田 厚, 手塚雅博, 鈴木俊亮, 宿澤孝太, 原 正幸, 前田剛志, 金子健二郎, 太田裕貴, 墨 誠, 田中克典, 黒澤弘二, 平山茂樹, 立原啓正, 戸谷直樹, 金岡祐司, 大木隆生. ステントグラフト時代における血管外科医のトレーニング 施設集約化により open 手術も血管内手術も習得できる. 第111回日本外科学会定期学術集会. 東京 (誌上開催), 5月.
- 15) 金岡祐司, 手塚雅博, 宿澤孝太, 原 正幸, 金子健二郎, 前田剛志, 太田裕貴, 墨 誠, 田中克典, 黒澤弘二, 平山茂樹, 立原啓正, 戸谷直樹, 石田 厚, 大木隆生. 胸部下行大動脈瘤に対するステントグラフト術の中期成績. 第111回日本外科学会定期学術集会. 東京 (誌上開催), 5月.
- 16) 黒澤弘二, 手塚雅博, 鈴木俊亮, 原 正幸, 馬場 健, 宿澤孝太, 前田剛志, 金子健二郎, 太田裕貴, 墨 誠, 田中克典, 平山茂樹, 立原啓正, 戸谷直樹, 金岡祐司, 石田厚, 大木隆生. 慢性解離性大動脈瘤に対するステントグラフト治療: Partial exclusion vs. Complete exclusion の比較. 第111回日本外科学会定期学術集会. 東京 (誌上開催), 5月.
- 17) 田中克典, 手塚雅博, 鈴木俊亮, 宿澤孝太, 原 正幸, 金子健二郎, 前田剛志, 太田裕貴, 墨 誠, 黒澤弘二, 平山茂樹, 立原啓正, 戸谷直樹, 金岡祐司, 石田 厚, 大木隆生. 総腸骨動脈瘤を伴う腹部大動脈瘤における枝付きステントグラフトによる内腸骨動脈温存の試み. 第111回日本外科学会定期学術集会. 東京

(誌上開催), 5月.

- 18) 墨 誠, 宿澤孝太, 原 正幸, 前田剛志, 金子健二郎, 太田裕貴, 黒澤弘二, 田中克典, 平山茂樹, 立原啓正, 戸谷直樹, 金岡祐司, 石田 厚, 大木隆生. 胸部ステントグラフト留置時の正確性に及ぼす因子解析-TAGを正確に留置するために-. 第111回日本外科学会定期学術集会. 東京(誌上開催), 5月.
- 19) 宿澤孝太, 原 正幸, 前田剛志, 金子健二郎, 太田裕貴, 墨 誠, 黒澤弘二, 田中克典, 平山茂樹, 立原啓正, 戸谷直樹, 金岡祐司, 石田 厚, 大木隆生. 当科における内臓動脈瘤の治療戦略と中期成績. 第111回日本外科学会定期学術集会. 東京(誌上開催), 5月.
- 20) 芦塚修一, 馬場優治, 平松友雅, 大橋伸介, 田中圭一郎, 黒部 進, 桑島成央, 吉澤穠治, 大木隆生. 小児および重症身体障害児(者)の胃食道逆流症(GERD)に対する腹腔鏡下噴門形成術の適応範囲 第一選択は開腹術か腹腔鏡手術か? 第111回日本外科学会定期学術集会. 東京(誌上開催), 5月.

#### IV. 著 書

- 1) 大木隆生. 第八章:ステントグラフト内挿術の将来展望と課題 1. 腹部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフト治療の手法と成績. 古森公浩(名古屋大学)編. 腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術マスターガイド. 東京:南山堂, 2011. p.139-51.
- 2) 大木隆生. 総論 18. 再生医学. 北島政樹<sup>1)</sup>監修, 加藤治文<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>国際医療福祉大学), 畠山勝義(新潟大学), 北野正剛(大分大学)編. 標準外科学. 第12版. 東京:医学書院, 2011. p.228-37.
- 3) 大木隆生. 動脈疾患, 静脈疾患. Year Note:内科・外科編. 2012年版. 東京:メディックメディア, p.147-59, 60-4.
- 4) 石田 厚, 大木隆生. 第二章:腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術の歴史と欧米の治療成績. 古森公浩(名古屋大学)編. 腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術マスターガイド. 東京:南山堂, 2011. p.9-16.
- 5) 太田裕貴, 金岡祐司, 大木隆生. EVARのpit-fallとその対策. 重松 宏監修, 太田 敬, 小櫃由樹生編. 標準血管外科学Ⅲ:日本血管外科学会教育セミナーテキスト. 東京:メディカルトリビューン, 2011. p.94-101.
- 6) 太田裕貴, 金岡祐司, 大木隆生. Trufill DCS Orbitを用いた「ヨット部作戦」テクニク. Clinical Update. 2011.
- 7) 前田剛志, 太田裕貴, 黒澤弘二, 大木隆生. 第5章:その他のインターベンション 4. 大動脈瘤に対するステントグラフト. 横井宏佳(小倉記念病院)編. EVTの基本とコツ:格段にうまくいく:症例でわかるデバイスの選択・操作とトラブルシューティング.

東京:羊土社, 2011.

- 8) Kaneko K, Kanaoka Y, Ohki T. Section VI. Endovascular management of aneurysmal disease 18. Endovascular management of abdominal aortic aneurysms. In: Ivan PC, Ravish S, Jay SY, editors. Practical peripheral vascular intervention. Second Edition. Philadelphia: Wolters Kluwer Health/Lippincott Williams & Wilkins, 2011. p.279-301.

#### V. その他

- 1) 大木隆生. 血管外科医・大木隆生医師の超難関手術に密着! テレビ朝日. スーパーJチャンネル. 2011.6.
- 2) 大木隆生. 閉塞性動脈硬化症と下肢静脈瘤. テレビ東京. 話題の医学. 2011.7.
- 3) 大木隆生. からだ 医療のページ:下肢静脈瘤治療. 読売新聞 2011年9月8日:朝刊9面.
- 4) 大木隆生. 人生最後の20年を健やかに生きるために! 名医6人からの最終提言. 週刊新潮 2011:56(37):146-53.
- 5) 大木隆生. 銀座静脈瘤センターで行われている低侵襲な日帰りの下肢静脈瘤に対するレーザー治療の様子. 日本テレビ. スッキリ. 2011.9.
- 6) 大木隆生. 8割が女性“下肢静脈瘤”世界的血管外科医の手術密着. テレビ朝日. ワイドスクランブル. 2011.8.